

「租税教室」  
の活用「税」について、自分ごととして考える  
～「主権者教育」へとつなぐ～

毎年、鳥取県東部地区租税教育推進協議会では、次代を担う児童生徒が、税の意義や役割を正しく理解し、社会の一員として税を納め、その使い道に関心を持ち、国の在り方を主体的に考えることをねらいとして、「税」の出前授業（「租税教室」）が実施されています。

今号外では、「租税教室」を活用し、生徒が「税」を自分のこととして考える機会を創出している八頭町立八頭中学校における2年生社会科歴史の授業や、租税教育推進校表彰校等の様子について紹介します。

## 単元「明治維新」

鳥取税務署の方を講師とし、税金クイズやグループワーク等を通して、主体的に「税」の歴史と現代の税の在り方を考えたよ！

【めあて】なぜ、税の歴史・仕組みを学ぶことが大切なのか説明できる



## 【授業後の生徒の振り返り】

税は時代を重ねるごとに形を変えて現代につながっていることがわかった。あまり自分には関係ないことだと思っていたけれど、消費税など自分に関わる税がたくさんあるので、今後の生活や18歳から得る選挙権等で、自分の考えをしっかりと示していきたい。

社会科における「社会的な見方・考え方」を働かせて、「思考力、判断力、表現力等」の育成や深い学びを目指しているね！

## 租税教育推進校表彰 鳥取市立逢坂小学校

## 児童生徒による 税に関する優秀作品展

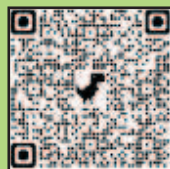


12月12日(木)～12月19日(木)  
鳥取市立中央図書館で展示

「租税教室」は、全ての学校種で開催され、昨年度、東部地区の小学校・義務教育学校では、全学校（53校中53校）で開催されました。一方、中学校・義務教育学校では、9校（23校中）での開催にとどまり、今後の活用が期待されるところです。小・中学校等の早期の段階での「主権者教育」の充実・推進に向け、児童生徒が「税」について考える機会の一つとして、「租税教室」を積極的に御活用ください。

12月・1月  
授業研究会等

校内授業研究会等の  
情報はこちらから →



エキスパート教員の  
公開授業はこちらから →

